# イオンチャネルを有する[Ni(dmit)₂]⁻塩のリチウムイオン伝導制御

<sup>1</sup>広島大院理,<sup>2</sup>広島大キラル国際研究拠点,<sup>3</sup>広島大先進セ,<sup>4</sup>北大院環境科学院, <sup>5</sup>東北大多元研,<sup>6</sup>北大電子研

○市橋克哉<sup>1</sup>, 今野大輔<sup>1</sup>, マリュニナクセニヤ<sup>1,2</sup>, 井上克也<sup>1,2,3</sup>, 豊田和弘<sup>4</sup>, 芥川智行<sup>5</sup>, 中村貴義<sup>6</sup>, 西原禎文<sup>1,2,3</sup>

# Control of Lithium Ion Conduction for [Ni(dmit)<sub>2</sub>]<sup>-</sup> Salts Having Ion Channel Structures

•Katsuya Ichihashi<sup>1</sup>, Daisuke Konno<sup>1</sup>, Kseniya Maryunina<sup>1,2</sup>, Katsuya Inoue<sup>1,2,3</sup>,

Kazuhiro Toyoda<sup>4</sup>, Tomoyuki Akutagawa<sup>5</sup>, Takayoshi Nakamura<sup>6</sup>, Sadafumi Nishihara<sup>1,2,3</sup>

<sup>1</sup> Graduate School of Science, Hiroshima University, Japan

<sup>2</sup> Chirality Research Center (CResCent), Hiroshima University, Japan

<sup>3</sup> Institute for Advanced Materials Research, Hiroshima University, Japan

<sup>4</sup> Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, Japan

<sup>5</sup> Institute of Multidisciplinary Research for Advanced Materials, Tohoku University, Japan

<sup>6</sup> Research Institute for Electronic Science, Hokkaido University, Japan

**[Abstract]** Recently, we have succeeded in the preparation of two isomorphic salts,  $Li_2([18]crown-6)_3[Ni(dmit)_2]_2(H_2O)_4$  (1) and  $Li_2([15]crown-5)_3[Ni(dmit)_2]_2(H_2O)_2$  (2), both of which possess ion channel structure formed by a one-dimensional array of supramolecular cations composed of crown ethers,  $Li^+$ , and crystalline water molecules. For 1, the  $Li^+$  ionic conductivity at 293 K in the crystalline state was enhanced from  $1.89 \times 10^{-8} \text{ S} \cdot \text{cm}^{-1}$  to  $2.46 \times 10^{-7} \text{ S} \cdot \text{cm}^{-1}$  via dehydration. In addition, analysis of  $Li^+$  ionic conductivities of 2, which incorporated a crown ether with a smaller cavity size, at the same temperature both before and after dehydration revealed values of  $1.93 \times 10^{-8} \text{ S} \cdot \text{cm}^{-1}$  and  $7.01 \times 10^{-7} \text{ S} \cdot \text{cm}^{-1}$ , respectively. In this presentation, control of  $Li^+$  ionic conduction and electronic conduction will be discussed in detail.

### 【序】

開 殻 電子 構 造 を 有 す る 平 面  $\pi$  共 役 系 の [Ni(dmit)<sub>2</sub>]<sup>o</sup>錯体は、磁気的・電気的性質を与える 分子として広く知られている。例えば、 $\delta$ =1のと きは S = 1/2 スピンに由来する磁性を示す一方で、 0 <  $\delta$  < 1 の状態では電気伝導性を示すことから、 分子磁性体や有機導電体のビルディングブロック として広く用いられてきた。

実際に当研究グループでは、2 種類の同形塩 Li2([18]crown-6)3[Ni(dmit)2]2(H2O)4 (1, Fig. 1) と Li2([15]crown-5)3[Ni(dmit)2]2(H2O)2 (2)の作製に成功 している。これらの塩は、クラウンエーテルとリ チウムイオン、結晶水からなる超分子カチオンが

一次元に積層することで形成されたイオンチャネ



Fig. 1. The crystal structure of 1 viewed along the *a*-axis.

ル構造を有していることが明らかとなった。一方で、カウンターアニオンとして存在 する[Ni(dmit)2]<sup>-</sup>錯体は系内でダイマーを形成しており、これが一次元に配列してラダ ー構造を有していた。本研究では、結晶内部のイオンチャネル構造を利用して、チャ ネル内部のリチウムイオン伝導度制御を目指した。

#### 【実験】

1,2 塩それぞれの単結晶について、イオンチャネルの方向に沿って金電極を貼り、 真空下で温度及び周波数依存性インピーダンススペクトルを測定した。電子伝導とイ オン伝導両方の寄与を考慮に入れた等価回路を用いて得られたスペクトルを解析し、 リチウムイオン伝導度を見積もった。

#### 【結果・考察】

1塩のインピーダンス(Z)を測定したところ、温度 の上昇とともに Z が減少していくことが明らかに なり、303 K以上で2成分系の半円が確認された(Fig. 2)。また、348 K まで昇温後、真空下で試料を放置 したところ、時間の経過とともに Z が減少してい く様子が観測された。この温度周辺で1塩中から結 晶水が脱離し始めることが熱重量分析から確認さ れているため、Zの減少はチャネル内部に存在する 水分子の脱離に起因すると考えられる。半日経過時 点でZの減少が収束したことから、348 Kから273 K まで、5K毎に降温過程を測定した(Fig.3)。その結 果、昇温過程とは異なり、インピーダンスの低周波 数側に直線が観測された。この直線はワールブルグ インピーダンスと呼ばれており、電子--イオン混合 伝導体でイオン伝導が支配的な時に観測されるこ とが知られている<sup>[1]</sup>。293 K のインピーダンススペ クトルから1塩の脱水前後でのリチウムイオン伝 導度を見積もったところ、それぞれ 1.89×10⁻8 S·cm<sup>-1</sup>, 2.46×10<sup>-7</sup> S·cm<sup>-1</sup> であった。また、アレニ ウスプロットを作成し活性化エネルギーを求めた ところ、脱水前後でそれぞれ 718 meV, 433 meV と 見積もられた。以上の結果から、脱水によりリチウ ムイオン伝導度を向上させることに成功した。固体 <sup>7</sup>Li-NMR スペクトル測定からも、1 塩中のリチウム イオン伝導を確認できた。脱水によるリチウムイオ ン伝導度の向上は、より小さな内径のイオンチャネ cooling process.



**Fig. 3.** Temperature-dependent impedance spectra of 1 during heating process.



Fig. 3. Temperature-dependent impedance spectra of completely dehydrated 1 during cooling process.

ルを含む2塩でも確認されており、その時のリチウムイオン伝導度は293Kにおいて 脱水前後で1.93×10<sup>-8</sup>S·cm<sup>-1</sup>,7.01×10<sup>-7</sup>S·cm<sup>-1</sup>と見積もられた。当日は、1,2塩それぞ れのリチウムイオン伝導の詳細に加え、1塩のもつ固相イオン交換機能と、それを応 用した電子及びイオン伝導の制御に関する議論も行う。

### 【参考文献】

[1] (a) E. Warburg, *Ann. Phys. Chem.* **67**, 493 (1899); (b) J. Jamnik and J. Maier, *J. Electrochem. Soc.* 146, 4183 (1999); (c) R. A. Huggins, *Ionics*, **8**, 300 (2002).